

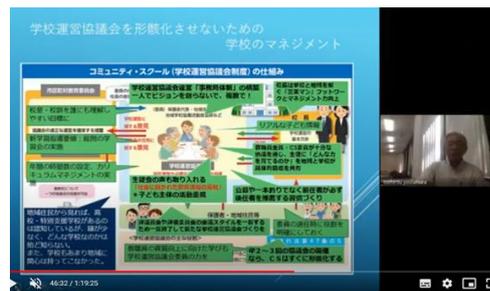
# 令和3年度 奈良県コミュニティ・スクール連絡会〔県立学校〕 実施報告

- 《日 時》 令和3年9月24日（金） 9:15~11:30
- 《方 法》 Google Classroom 及び Meet を利用し、オンラインで実施
- 《参 加》 県立学校の管理職、CS担当者、地域との協働推進事業担当者 計 46名
- 《内 容》 9:15~9:20 開会  
 9:20~10:30 講演「県立学校におけるコミュニティ・スクールの創造」  
 奈良県CSアドバイザー（文部科学省CSマイスター） 高木 和久  
 10:40~11:25 情報交換・説明  
 ① CS設置校【テーマに基づいた情報交換】  
 ② 令和4年度CS設置校【CS設置の手続き等に関する説明】  
 11:25~11:30 閉会

## ◆ 講演概要

「県立学校におけるコミュニティ・スクールの創造」と題して、高等学校や特別支援学校においてコミュニティ・スクールを推進していく上で大切にすべき視点について御示唆いただいた。

- ・ 宛職で学校運営協議会の委員を構成してしまうと本来の学校運営協議会の役割が機能しないのではないかと思います。コミュニティ・スクールを有効なものにしていこうと思うと、学校評議員会の延長のような学校運営協議会とならないことが大事になってくる。
- ・ 学校長が、学校と地域をつなぐ「営業マン」として、自身のネットワークとマネジメント力を向上させていくことも大事だと思う。また、校是・校訓を誰にも理解しやすい目標にし、「何のために」コミュニティ・スクールの制度を「どう活用するのか」を明確にしておくことが必要だ。
- ・ 県立学校には様々な専門の教職員がおられる。十分な熟議を通じて、教職員全員とCS委員が生徒に対して「どのような力を育てるのか」という具体的な目標を共有することが大事である。そのためにも、校内のチーム作りも大事になってくる。
- ・ 委員就任を依頼するときは、その委員にどのような役割を担ってもらいたいかを伝えることも大事になる。そのためにも学校長がしっかりしたビジョンをもっておくことが必要だ。働き方改革の観点からも、委員の方が様々な役割を担っていくことで、現在学校の担っている役割を少しずつ委員の方々に任せしていけるようになればと思う。
- ・ 今日まで県立学校では「地域」というものをあまり意識してこられなかった教職員も多いのではないかと思います。次年度からスタートする新学習指導要領にある「社会に開かれた教育課程」を実現するためには、教職員のより高い資質が必要となってくる。だからこそ、委員の中に社会教育等の専門家を選任するなど、教職員と一緒に学びあえる委員を入れることも1つの方法である。
- ・ 学校運営協議会の運営を持続可能なものにしていくため、協議会に事務局体制を構築していく必要がある。協議会のビジョン形成をリーダーが一人で創っていくのではなく、3~5年を見通しながら、「どのような力を生徒たちにつけていくのか」等のビジョンや方策を学校・協議会の複数で共有しておく、管理職、CS担当教職員や委員が交代しても、取組はぶれないうえに機能する。
- ・ 生徒会等にもコミュニティ委員会（仮称）を設置し、生徒主体の活動を重視していく（生徒が主体性と協働でPDCAを実現する）ことも大切になってくる。
- ・ CS委員には任期があるので、委員が交替する時期に前任者が必ず後任者を推薦する習慣づくりも必要である。委員が交替しても今までの流れを切らないうえに継続していける学校運営協議会の仕組みづくりも大事である。



## ◆ 情報交換・説明

- ・ CS設置校については、ワークシートを基に各校のCS推進状況について4つのグループに分かれて情報交換を行った。その後、話し合った内容を全体で共有し、高木アドバイザーから指導助言をいただいた。
- ・ 令和4年度CS設置校については、「県立学校コミュニティ・スクール関係書類」を基にCS設置の手続き等に関する説明を行った。

## 《参加者の感想》

- ・ CSを設置する上での重要なポイントを端的にお話いただいたので、とても理解しやすかった。
- ・ 形式にとらわれるのではなく、地域にとっても、子どもたちにとってもプラスになる主体的な関係を作っていくことが大切だと感じた。そのためにも学校のビジョンを明確化していく重要性を感じた。
- ・ 学校側の継続性ととともに、委員側の継続性や役割についても十分考えなければならぬことがよくわかった。
- ・ コミュニティ・スクールについてのイメージ像が講演前よりもはっきりとし、具体的に考えていく糸口がみえてきた。

